

うつのみやまちづくり市民会議 第2回合同会議 議事録

会議の名称	市民会議（第2回合同会議（第5回全体会） 市民福祉分科会）
開催日時	平成19年2月23日（金）午後6時から8時
開催場所	宇都宮市役所 14階 大会議室
出席者	（市民委員）伊達悦子会長，梅林孟副会長，新由美子委員，上野茂委員， 江連京子委員，大堀導子委員，千保喜久夫委員，矢田部一郎委員 （庁内部会） （市事務局）
会議内容	・策定本部における検討結果についての意見交換
会議資料	1. 策定本部における検討結果
発言者	発言内容
市	資料説明【重要度の高い項目】（省略）
市民委員	<p>■心のバリアフリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハード面のバリアフリーは進んできたにもかかわらず，特定の障害者しか外出しないのはなぜか。心のバリアが障害者にも障害者以外にもあるからではないか。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者と会話したりする直接的な交流が必要なことを市民会議側からは提案したい。既存事業の盲導犬とのふれ合い等では不十分である。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩けない子どもたちと会ったことがある。その子たちからは遊びに来てほしいと言われた。交流が必要とされている。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民はサービスの受け手となるだけでなく，提供者となれる。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座学や疑似体験では十分ではない。交流を始めて5日目くらいから意識は変わるのではないか。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心のバリアフリーについて，事業にはいくつか手法がありそうである。検討したい。
市民委員	<p>■福祉窓口の集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の広報誌の表紙に窓口の電話番号を載せるなどしてはどうか。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉ニーズはある日突然あらわれるため，問い合わせへのニーズは高い。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知が足りないことは市としても認識している。周知のための具体的な方法を今後検討したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知のうえでの工夫はわざわざ総合計画に載せるまでもなく，実施できるのではないか。

市民委員 市	<p>■子どもの居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉と教育の各部署が連携して進めてもらいたい。 ・ 来年度から始まる放課後子どもプランの一環として、市ではみやっこステーション事業（5校）を検討している。生涯学習課が主管となり、縦割りとならないよう配慮している。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢の交流が大切である。中学生や高校生も居場所へ積極的に参加してもらい、役割を与え、成長してほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会議の提案を踏まえ、放課後子どもプランの内容をより充実させてほしいというのが市民会議側の意見といえる。市では小学生のみを対象に考えているが、中学生以上も検討してほしい。
市民委員	<p>■ケアネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時のときのマニュアルが準備されているようだが、訓練はできているのか。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の地域を先行させてもよいので、1人暮らし高齢者を見守るネットワークをつくり、災害時を想定した訓練を行うことが必要である。1地域の成果を見れば、他の地域でもやる機運が高まるのではないかと。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を見守るネットワークについて、自治会を頼り過ぎても限界がある。地域包括センターや社協と連携し、専門職のサポートを得る必要がある。
事務局	<p>■健康づくりパイロットプラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会議からの提案のポイントは、なるべく各個人の生活パターンや負担に応じたきめ細かな健康づくりの方法を開発する点にある。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくりにあまり関心がない人も巻き込んで、事業を長続きさせる必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは関心のある人でスタートしてはどうか。具体的で科学的な成果が得られれば、これまで関心の薄かった人も興味を持つ可能性が高い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何も市のみで健康づくりプログラムを開発する必要はない。大学や医療機関との連携を考えてほしい。
市民委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市には体育に関わる人材も多い。協力してくれる人は多いのではないかと。
市民委員	<p>■ファミリーフレンドリー企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政と企業が共存していく市を目指したい。魅力的なまちとは、子育てがしやすいまちと言えるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリーフレンドリー企業を単に認定するだけでは十分でない。企業イメージの向上につながるように仕掛ける必要がある。

<p>市民委員</p> <p>市民委員</p> <p>市民委員</p> <p>市民委員</p> <p>事務局</p>	<p>■障害者の自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立というよりも、「自律」が必要である。 ・ 企業だけではなく、行政も障害者を受け入れるインターンシップを実施してほしい。 ・ 企業でのインターンシップは、単なる体験ではなく、企業側と障害者の側双方が、障害を持つ人の適性を考える機会にしてほしい。 ・ 障害者の努力でカバーできる領域とそれを超える領域の業務がある。現状ではそこを企業は分かっていない。 ・ 今日の議論を踏まえて、事業化に向けて具体化が必要な部分、例えば、心のバリアフリーをどのように進めるかなどは、市民側も行政側も引き続き検討し、提案し合うようできればと思います。本日はどうもありがとうございました。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--